

当院における赤血球製剤の有効期限延長に伴う効果について

◎下村 悠翔¹⁾、安武 謙¹⁾、平野 薫¹⁾、稻田 直樹¹⁾、森谷 康朗¹⁾、岩永 里美¹⁾、川崎 辰彦¹⁾、古谷 明子¹⁾
国家公務員共済組合連合会 佐世保共済病院¹⁾

【はじめに】2023年3月より赤血球製剤の有効期限が“採血後21日間”から“採血後28日間”に変更になった。当院は血液製剤を定期的に多く使用する診療科を有しないが、産科等における大量出血が起こる可能性があった。有効期限変更に伴い、使用状況と廃棄率から各血液型の赤血球製剤をA型4単位、B、O、AB型を2単位ずつ院内在庫とした。今回は当院における有効期限延長に伴う運用の変化とその効果について報告する。

【期間・対象】下記の期間に輸血を行った1,863本(3,724単位)。有効期限変更前(2022年2月～2023年2月)を期間A、期間変更後(2024年3月～2025年3月)を期間Bとした。

【方法】以下について比較した。

- ① 使用本数と廃棄率
- ② 緊急大量輸血時、最初の製剤のクロスマッチ終了までにかかった時間
- ③ 廃棄の血液型の内訳と理由
- ④ 各1ヶ月間において、入庫から有効期限までと入庫

から使用するまでに要した日数

【結果】① 期間A：使用本数 933本、廃棄率 0.68%。期間B：930本、0.53%。② 期間A：7例、平均52分、期間B：5例、平均34分。③ 期間A(廃棄数6本)：手術や大量出血時の準備血を他患者に転用できなかつた例が多かった。期間B(5本)：AB型の院内在庫の期限切れが多くみられた。④ 期間A：入庫から有効期限までの平均日数12.5日、入庫から使用日までの平均日数0.4日。期間B：19.0日、3.0日。

【まとめ】有効期限延長により院内に在庫を置けるようになったことで、緊急大量輸血時の開始時間を早めることができた。また日勤帯内に製剤の準備が出来ることが増え、夜勤帯の検査室や病棟の負担軽減にも繋がった。当院のように輸血を頻繁に行わない病院でも、今回の有効期限延長により廃棄率を上げることなく在庫を置くことができた。

連絡先：0956-22-5136（内線1152）